

米国農務省穀物等需給報告(2022年7月12日発表のポイント)

令和4年7月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、7月12日(現地時間)、2022/23年度の3回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2022/23年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

(※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 27億 6,360万トン(対前年度比 1.2%減) ↓
- ② 消費量: 27億 8,051万トン(対前年度比 0.5%減) ↓
- ③ 期末在庫量: 7億 8,819万トン(対前年度比 2.1%減) ↑
期末在庫率: 28.3%(対前年度差 0.5ポイント減) ↑

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、カナダ、米国で収穫面積が引き上げられたものの、EUでスペイン、イタリア等での乾燥の影響を受け単収が引き下げられ、ウクライナで収穫面積が引き下げられたこと等から、前月より下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、EUやウクライナで主に飼料用その他需要量の引き下げにより前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の生産量は、消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの実産量は前月から引き下げられたが、輸出量は変更はなく、ともに前年度より大きく減少する見通し。

- ① 生産量: 7億 7,164万トン(対前年度比 0.9%減) ↓ ・カナダ、ロシア、米国等で増加、ウクライナ、豪州、EU、インド、アルゼンチン等で減少(前月に比べEU、ウクライナで下方修正)
- ② 消費量: 7億 8,422万トン(対前年度比 0.8%減) ↓ ・中国、インド、EU等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億 6,752万トン(対前年度比 4.5%減) ↑ ・インド、EU等で減少
期末在庫率: 34.1%(対前年度差 1.3ポイント減) ↑

とうもろこし : 世界の生産量は、ロシア、EUなどで引き下げられたが、米国で6月の作付面積調査で3月時点の作付意向調査より面積が引き上げられたため、前月から上方修正された。なお、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、ロシア、EUなどで引き下げられ前年度より減少する見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度をわずかに上回る見通し。なお、ウクライナの実産量・輸出量は前月から変更はなく、ともに前年度より大きく減少する見通し。

- ① 生産量: 11億 8,590万トン(対前年度比 2.6%減) ↑ ・ブラジル、アルゼンチン等で増加、ウクライナ、米国、EU等で減少
- ② 消費量: 11億 8,524万トン(対前年度比 1.1%減) ↓ ・中国、ブラジル等で増加、米国、カナダ等で減少
- ③ 期末在庫量: 3億 1,294万トン(対前年度比 0.2%増) ↑ ・ウクライナ、ブラジル等で増加、中国等で減少
期末在庫率: 26.4%(対前年度差 0.4ポイント増) ↑

コメ(精米) : 世界の生産量は、米国カリフォルニア州の乾燥の影響で中・短粒種の作付面積が1958年以來の低水準となったこと等から、前月から下方修正されたが、史上最高となる見通し。世界の消費量も史上最高となる見通し。世界の生産量が消費量を下回り、世界の期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- ① 生産量: 5億 1,476万トン(対前年度比 0.2%増) ↓
- ② 消費量: 5億 1,863万トン(対前年度比 0.7%増) ↓
- ③ 期末在庫量: 1億 8,276万トン(対前年度比 2.1%減) ↓ ・中国等で減少
期末在庫率: 35.2%(対前年度差 1.0ポイント減) ↓

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、米国で6月の作付面積調査で3月時点の作付意向調査より面積が引き下げられたため、下方修正されたが、前年度を上回り、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイでの増産により、史上最高となる見通し。世界の消費量は中国の需要増から前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- ① 生産量: 3億 9,140万トン(対前年度比 11.0%増) ↓ ・ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ等で増加(前月に比べ米国で下方修正)
- ② 消費量: 3億 7,775万トン(対前年度比 4.0%増) ↓ ・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,961万トン(対前年度比 12.3%増) ↓ ・ブラジル、アルゼンチン等で増加
期末在庫率: 26.4%(対前年度差 1.9ポイント増) ↓

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2022年7月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,724.09	2,796.23	2,763.60 ▲	1.2%	▲ 4.4	2,295.7
消費量		2,739.56	2,793.42	2,780.51 ▲	0.5%	▲ 4.5	2,284.4
期末在庫量		802.34	805.10	788.19 ▲	2.1%	2.2	480.4
期末在庫率		29.3%	28.8%	28.3% ▲	0.5	0.1	21.0%
小麦							
生産量		775.71	779.03	771.64 ▲	0.9%	▲ 1.8	660.5
消費量		782.30	790.51	784.22 ▲	0.8%	▲ 1.8	680.0
期末在庫量		291.63	280.10	267.52 ▲	4.5%	0.7	181.1
期末在庫率		37.3%	35.4%	34.1% ▲	1.3	0.2	26.6%
粗粒穀物							
生産量		1,439.10	1,503.64	1,477.20 ▲	1.8%	▲ 2.0	1,159.2
消費量		1,453.71	1,488.10	1,477.65 ▲	0.7%	▲ 2.2	1,139.5
期末在庫量		322.81	338.36	337.91 ▲	0.1%	2.2	175.7
期末在庫率		22.2%	22.7%	22.9% ▲	0.1	0.2	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,129.00	1,217.87	1,185.90 ▲	2.6%	0.1	898.8
消費量		1,143.17	1,198.88	1,185.24 ▲	1.1%	▲ 1.0	877.4
期末在庫量		293.29	312.28	312.94 ▲	0.2%	2.5	144.8
期末在庫率		25.7%	26.0%	26.4% ▲	0.4	0.2	16.5%
コメ(精米)							
生産量		509.29	513.56	514.76 ▲	0.2%	▲ 0.6	476.1
消費量		503.55	514.82	518.63 ▲	0.7%	▲ 0.6	464.9
期末在庫量		187.90	186.64	182.76 ▲	2.1%	▲ 0.7	123.5
期末在庫率		37.3%	36.3%	35.2% ▲	1.0	▲ 0.1	26.6%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		368.13	352.74	391.40 ▲	11.0%	▲ 4.0	269.1
消費量		363.90	363.13	377.75 ▲	4.0%	▲ 0.1	265.1
期末在庫量		99.83	88.73	99.61 ▲	12.3%	▲ 0.9	58.7
期末在庫率		27.4%	24.4%	26.4% ▲	1.9	▲ 0.2	22.1%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 12, 2022)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2022年7月12日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		429.86	449.59	436.77	▲ 2.9%	1.6	353.0
消費量		351.02	359.67	353.20	▲ 1.8%	0.2	317.1
輸出量		107.45	94.34	92.67	▲ 1.8%	0.6	51.6
期末在庫量		58.40	60.40	58.38	▲ 3.3%	1.8	44.2
期末在庫率		12.7%	13.3%	13.1%	▲ 0.2	0.4	12.0%
小麦							
生産量		49.75	44.79	48.47	▲ 8.2%	1.2	61.3
消費量		30.48	30.53	30.26	▲ 0.9%	0.1	37.8
輸出量		26.99	21.88	21.77	▲ 0.5%	0.7	27.5
期末在庫量		23.00	17.96	17.39	▲ 3.2%	0.3	19.5
期末在庫率		40.0%	34.3%	33.4%	▲ 0.8	0.2	29.9%
粗粒穀物							
生産量		372.89	398.71	382.76	▲ 4.0%	0.7	285.3
消費量		315.70	324.42	318.33	▲ 1.9%	0.1	275.5
輸出量		77.48	69.80	68.39	▲ 2.0%	-	20.7
期末在庫量		34.01	41.11	39.87	▲ 3.0%	1.4	23.5
期末在庫率		8.6%	10.4%	10.3%	▲ 0.1	0.4	7.9%
とうもろこし							
生産量		358.45	383.94	368.44	▲ 4.0%	1.1	273.2
消費量		306.54	315.36	309.13	▲ 2.0%	-	263.0
輸出量		69.92	62.23	60.96	▲ 2.0%	-	18.5
期末在庫量		31.36	38.35	37.33	▲ 2.7%	1.8	20.9
期末在庫率		8.3%	10.2%	10.1%	▲ 0.1	0.5	7.4%
コメ(精米)							
生産量		7.22	6.09	5.54	▲ 9.0%	▲ 0.3	6.3
消費量		4.85	4.72	4.60	▲ 2.5%	0.1	3.8
輸出量		2.98	2.65	2.51	▲ 5.3%	▲ 0.1	3.4
期末在庫量		1.39	1.33	1.13	▲ 15.0%	0.0	1.2
期末在庫率		17.8%	18.0%	15.9%	▲ 2.2	0.6	16.1%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		114.75	120.71	122.61	1.6%	▲ 3.7	82.8
消費量		61.05	63.20	64.49	2.0%	▲ 0.3	48.6
輸出量		61.52	59.06	58.11	▲ 1.6%	▲ 1.8	36.1
期末在庫量		6.99	5.85	6.27	7.2%	▲ 1.3	3.8
期末在庫率		5.7%	4.8%	5.1%	0.3	▲ 1.0	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 12, 2022)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物等の価格動向（2022年）

● 小麦：8.31ドル/bu（前年同時期の価格：6.46ドル/bu）

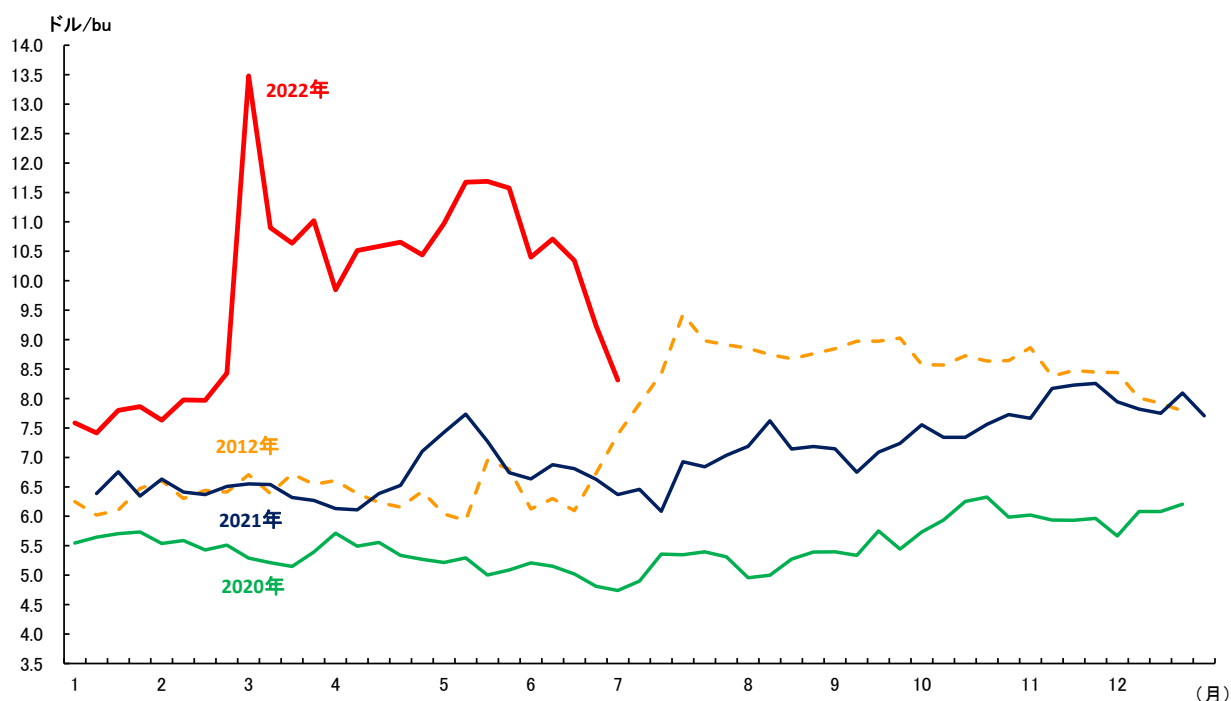
【価格は、シカゴ商品取引所における2022年7月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：14.25ドル/bu(2022年3月7日)】

1月に入り、アルゼンチン産小麦の豊作や、USDA 1月需給報告での市場予想を上回る世界の期末在庫量も、7ドル/bu 台前半から半ばで推移。その後、1月下旬にかけ乾燥が続いていた米国中西部での寒波の影響懸念や、ウクライナ情勢の緊張から、8ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨等から、2月初めに7ドル/bu 台半ばに値を下げた。

2月中旬以降、ロシアのウクライナ侵攻による供給懸念等から値を上げ、3月7日には史上最高の14.25ドル/buに値を上げた。その後は、黒海地域の輸出の混乱も、USDA発表の作付意向面積が前年度に比べ増加したこと等から、4月初めに10ドル/bu 前後まで値を下げた。

4月上旬から中旬にかけ、ロシアのウクライナ侵攻の深刻化による世界的な小麦の供給懸念や、冬小麦の主産地の米国プレーンズの乾燥による作柄への影響懸念等から11ドル/bu 台前半まで上昇したものの、米国の低調な輸出等から5月初めにかけ10ドル/bu 台半ばに値を下げた。

5月上旬から中旬にかけ、米国産冬小麦主産地の降雨も、インドの輸出停止やウクライナ産の輸出の停滞から、12ドル/bu 台後半まで値を上げた。その後、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画、6月のUSDA需給報告で米国産冬小麦の生産量が引き上げられたことや、米国や欧州での冬小麦の収穫進展、USDA面積調査で作付面積が予想を上回ったこと等から値を下げ、6月末現在、8ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

● とうもろこし：7.55 ドル/bu （前年同時期の価格：6.97 ドル/bu）

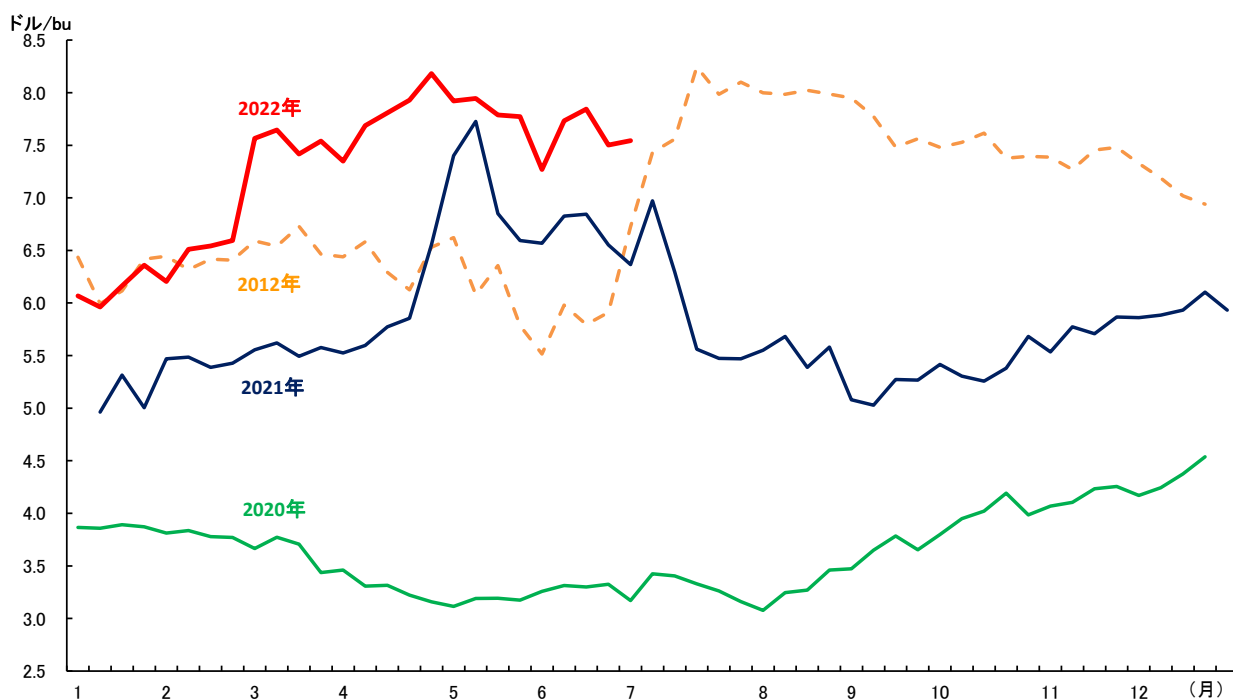
【価格は、シカゴ商品取引所における 2022 年 7 月第 1 週末のセツルメント価格。史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年 8 月 21 日)】

1 月に入り、南米の乾燥懸念に支えられ 6 ドル/bu 前後で推移したものの、1 月半ばに、南米の短期的な降雨予報等から 5 ドル/bu 台後半に値を下げた。その後、原油価格の上昇、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から 6 ドル/bu 台前半に値を上げた。

2 月に入り、南米の短期的な降雨予報等で一時値を下げたものの、2 月中旬から 3 月中旬にかけて、ロシアのウクライナ侵攻やラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥による減産懸念、原油価格の上昇等から 7 ドル/bu 台半ばに値を上げた。その後も、ウクライナ情勢や原油価格の上昇に加えて、市場予想を下回る USDA 発表の作付意向面積等に支えられ、7 ドル/bu 台半ばで推移。

4 月に入り、ロシアによるウクライナ侵攻の深刻化、米国中西部の低温や雨がちな天候による作付けの遅れ、原油価格の高止まり等から 4 月半ばに 8 ドル/bu 台前半に値を上げた。その後、ロシアのウクライナ侵攻の継続、原油価格の高止まりに支えられたものの、米国中西部の遅れていた作付けが天候の改善により加速されたこと、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画等から、6 月初めに 7 ドル/bu 台前半に値を下げた。

6 月上旬から中旬にかけて、ロシアのウクライナ侵攻の継続、原油価格の高止まり、堅調なエタノール生産から 7 ドル/bu 台後半に値を上げたものの、米国中西部の生育に適した天候や、USDA 面積調査で作付面積が予想を上回ったこと等から値を下げ、6 月末現在、7 ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：443 ドル/トン（前年同時期の価格：447 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における2022年7月第1水曜日のFOB価格。史上最高値：1,038ドル/トン(2008年5月21日)】

1月に入り、アフリカを始めとした国際市場におけるタイ米への強い需要やパーツ高等により、450ドル/トン前半に値を上げた。

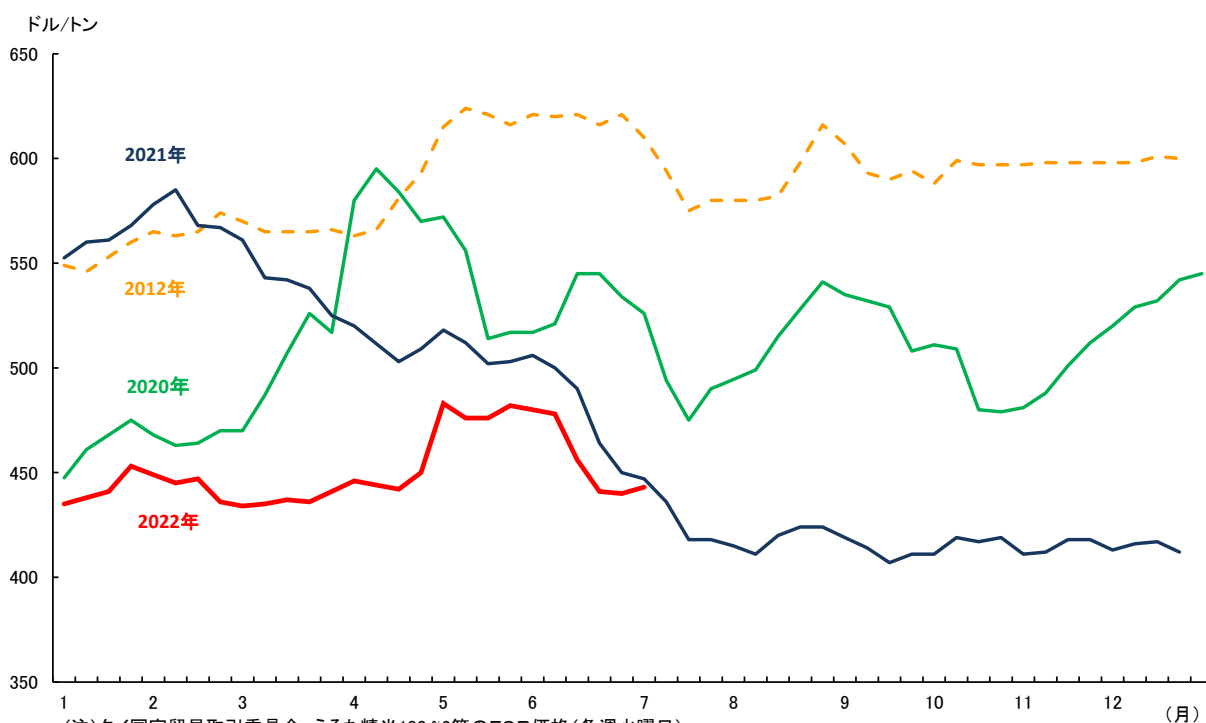
2月に入り、旧正月の休暇期間などによる需要の減少などから、2月中旬には440ドル/トン前半ばまで値を下げ、その後もパーツ高により海外からの需要が減少したことで更に430ドル/トン前半ばまで値を下げた。

3月に入り、ロシアのウクライナ侵攻が深刻化する中でも、コメは新規需要が乏しく、ほぼ横ばいで推移したものの、3月下旬からアフリカ諸国や中東からの需要により440ドル/トン前半まで値を上げた。

4月に入り、パーツ安の一方で、ラマダンを迎えたアフリカ諸国の需要に下支えされ、440ドル/トン前半から半ばで推移。その後、イラクからの需要で450ドル/トン前後に値を上げた。

5月に入り、パーツ安にも関わらず、継続するイラク等からの強い需要により480ドル/トン前半まで値を上げた。その後、インド産等との価格競争により値を下げたものの、タイ国内およびイラクからの需要により再び480ドル/トン前半まで値を上げた。

6月に入り、2017年以來のパーツ安に加え、イラクやアフリカ諸国からの需要が低下したことから値を下げ、6月下旬現在、440ドル/トン前後で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格推移。

● 大豆：16.26ドル/bu（前年同時期の価格：14.52ドル/bu）

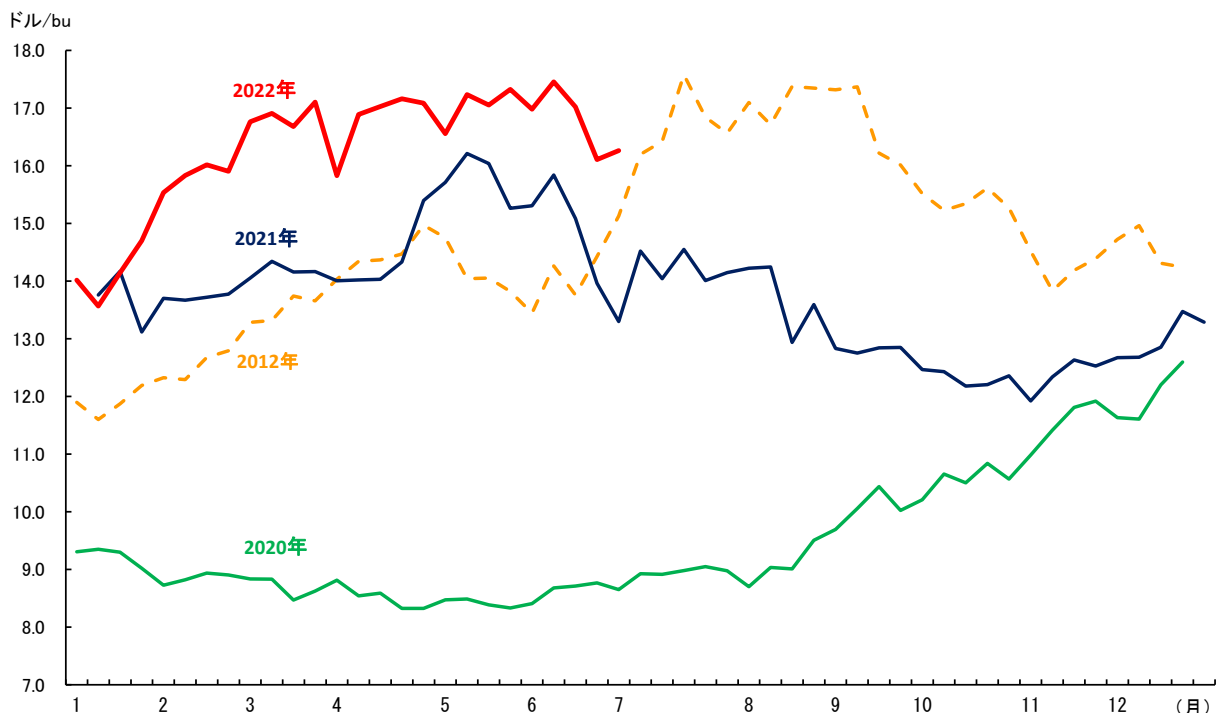
【価格は、シカゴ商品取引所における2022年7月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：17.71ドル/bu(2012年9月4日)】

1月に入り、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から1月上旬に14ドル/bu前後まで値を上げたものの、南米の短期的な降雨予報等から一時13ドル/bu台半ばまで値を下げた。その後、再び乾燥による南米の生産量の減少見通し等から2月上旬に16ドル/bu台後半に値を上げたものの、下旬には南米産地の降雨予報や利益確定の動きから一時15ドル/bu台後半に値を下げた。

3月に入り、ウクライナ情勢の緊張の中、南米の高温・乾燥によるさらなる減産懸念や、植物油価格全体の上昇等から、3月下旬にかけ17ドル/bu台前半に値を上げたものの、3月末にかけ、市場予想を上回るUSDA発表の作付意向面積から16ドル/bu台前半に値を下げた。

4月に入り、ラニーニャ現象に伴うブラジルの高温・乾燥による減産やロシアのウクライナ侵攻の深刻化、植物油価格全体の上昇等から4月下旬に17ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、5月上旬にかけて、コロナ感染封じ込めに伴うロックダウンによる中国の需要低迷の懸念等から16ドル/bu台前半まで値を下げた。

5月中旬にかけて、米国の中国向けを中心とした好調な大豆輸出、ロシアのウクライナ侵攻の継続や、植物油価格全体の高止まり等から17ドル/bu台前半に再び値を上げ、さらに、6月上旬には、中国のロックダウンの解除、大豆の堅調な国内需要や原油相場の上昇等から17.69ドル/buと2012年9月の史上最高値に迫る水準まで値を上げた。その後、中国需要の伸び悩み懸念や欧米のインフレや経済成長の減速懸念に伴う金融市場の下落等を背景に値を下げたものの、予想を下回る米国産の作柄評価や、USDA面積調査で作付面積が予想を下回ったこと等から値を上げ、6月末現在、16ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
108.99	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86		

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
45.01	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12		

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

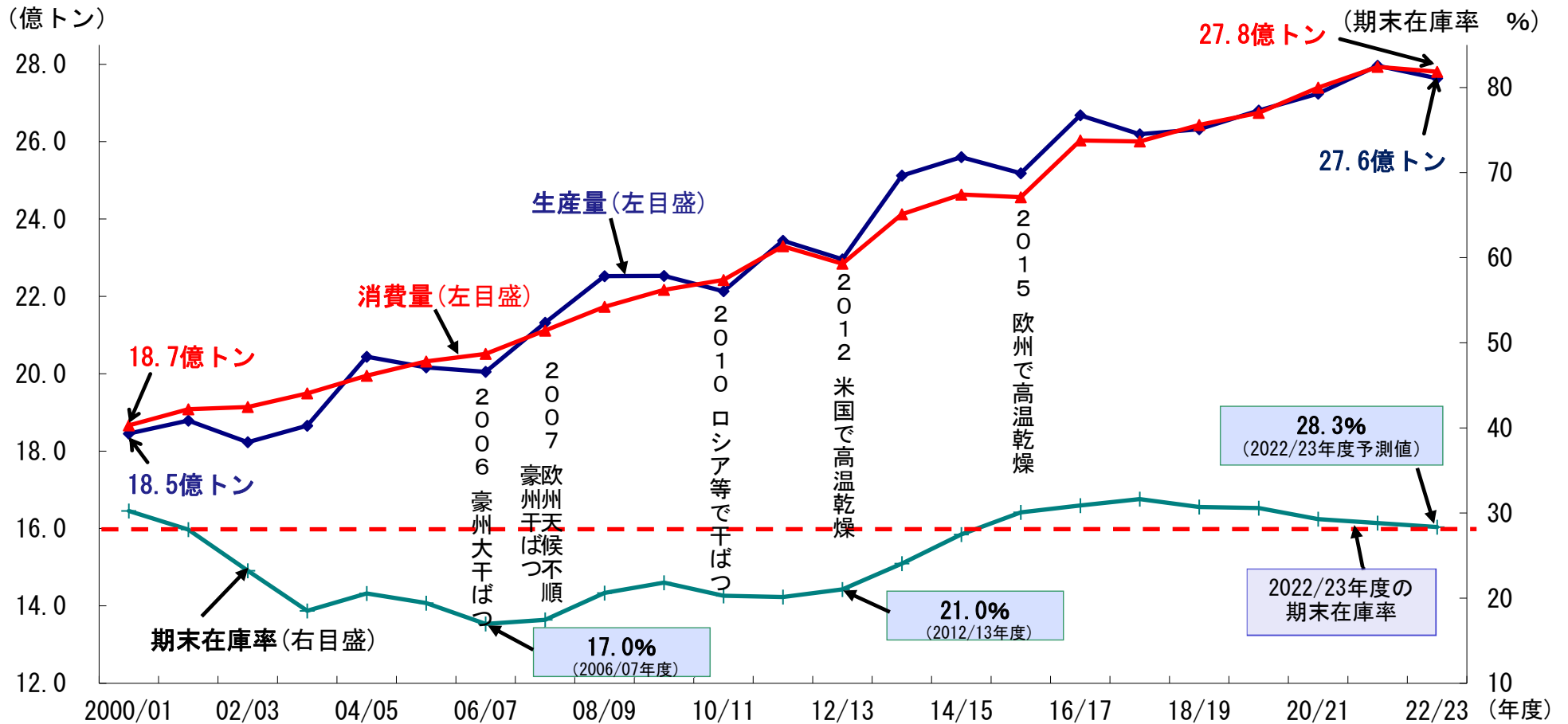
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
57.03	57.53	50.54	30.45	16.70	28.53	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	47.07	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.84		

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和4年6月, 120頁
但し、2022年6月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2022/23年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2022/23年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.3%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (July 2022)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。